28PA-am373

地域連携早期体験プログラムにおけるマナー教育の導入とその効果

○田原 佳代子[1], 遠藤 泰[1], 二瓶 裕之[1]（[1]北医療大薬）

【緒言】 北海道医療大学薬学部では、一年次に地域と連携した早期体験教育を行っている。地域の病院と薬局および社会福祉施設を訪問し、薬剤師や他職種のスタッフが働く現場の見学と体験を通じて、薬剤師になるために6年間で身につけなければならないことは何かを考える動機付けの必修科目である。しかし、訪問先で学生の態度やマナーが悪いなどの問題も発生してきた。そこで本学では 2015 年度より施設訪問の事前学習として、訪問のマナーについて考えるワークショップを導入した。その取組み内容と効果について報告する。

【方法】 学習の時期は1年前期で、本ワークショップは全15回のうちの2回目に実施した。過去に問題となった事例を8テーマ提示し、学生自身に各グループ2テーマ選択させた。グループワークは、KJ 法にて問題点を抽出・分類し、問題が起こる原因、その行為が与える影響などについて考え議論を深め、問題の発生を防ぐにはどうしたらよいかという観点から、訪問に臨む姿勢や訪問先での学習態度、トラブル発生の防止策・解決策についてまとめたプロダクトの提出を課した。

【結果と考察】 8テーマのうち、1班しか選択されなかったテーマや3分の2の班が選択したテーマなど、テーマの選択状況に偏りが見られたが、話し合いの結果得られたプロダクトには、選んだテーマによる大きな差異はなかった。施設訪問後に実施した訪問先および引率教員のアンケートから、この方法でワークショップを実施した 2015、2016 年度は、テーマとして取り上げたような問題が発生しなかったことが分かった。訪問のマナーや望ましい見学態度を学生一人一人が考え、同世代の多様な考えを聞くことで、注意による指導教育より効果的な成果が得られるものと考えられる。